

三味線奏者・吉田健一さんとの出会い。そして選んだプロへの道

力強い独特の響きが聴く人の心を揺さぶる津軽三味線。その伝統的な津軽三味線を大切にしつつも、楽器としての三味線の可能性を模索し、三味線の魅力を多くの人に知ってもらうため、プロの三味線奏者として活動を始めた白田さん。

「師匠の吉田健一さんとお兄さんの良一郎さんの三味線を初めて聴いたのは9歳のとき。三味線を弾く二人の姿にあこがれ、自分もあんなふうになりたいと思ったのが三味線を始めたきっかけですね。健一さんの音楽センスや表現力はすばらしく、そしてハイレベルです。弟子入りし、あらためて『健一さんのようになりたい』と、強く思うようになりました。健一さんへのあこがれから始めた三味線ですが、いつしか、ただひたすらに三味線を弾きたくて、学校に行く時間も惜しいと思うようになりました。高校を中退するときは迷いましたが、『やりたいことをやれ。後悔したときは、やり直せばいい』との恩師の言葉で前に踏み出せました」と、話す白田さん。

自分が表現したいものを聴いている人に伝えられる奏者に

「僕の三味線の演奏のテーマは



▲市立図書館で行われた『津軽三味線ミニ二演奏会』

『自然』。川のせせらぎや木々のおい。そんな情景が目をつぶっていても浮かぶような音色を奏でたい。僕の三味線の音色から視覚だけではなく、聴覚や臭覚などの五感で自然を感じてもらえるような表現をしたいです。三味線独奏にこだわらず、他の楽器と融合することで、三味線の違う魅力がでると思います。昨年12月、胡弓奏者・福本ゆめさんと結成したユニット『羅風双』も、その表現方法のひとつなんです。僕の表現したい『自然』が、三味線を通して聴いている人に伝わったときが何よりうれしい。そんな演奏ができるように、これからも腕を磨いていきます」。

三味線の魅力を追求し、はるかな高みを目指す白田さんの挑戦が始まりました。



KIRARI

しら た みち あき

白田路明さん(登別本町)

プロとして活躍している登別市出身の三味線奏者『吉田兄弟』と出会い、11歳のとき、吉田健一さんに弟子入りした白田路明さん。

今年の春には、三味線の道を究めるため、室蘭東高校を中退し、プロ奏者に転身。胡弓とのユニット『羅風双』を結成し、プロ活動を開始した白田さんに、『三味線』への思いや魅力について話を聞きました。

三味線は、自分自身を表現できるもののひとつ。



昭和59年3月、登別市生まれ。17歳。

9歳から三味線を始め、12歳で初出場した『第8回津軽三味線全日本金木大会』で『小学生の部』2位を獲得。三味線のすばらしさを多くの人に知ってもらうため、地元・登別を中心に音楽活動を展開。

